
追憶

EARTH

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
追憶

【Nコード】
N4245P

【作者名】
EARTH

【あらすじ】
それぞれの様々な追憶、
切ない記憶の一片を少し覗いてみてください…

失恋

誰よりも
愛してる

誰よりも
想ってる

そう僕の中には
確かに確信があつたよ

大好きだと伝えても
あなたは笑って誤魔化して

ずるいよ
ありがとうなんて

そんなのいらない

欲しいのは
あなたの心

ずるいよ
ごめんねなんて

僕まで悲しくなるから

そんな顔しないで
青空のように微笑んで

切に願う

ただそれだけを

でも僕は見た

泣きそうだ

もう僕の出る幕は
ないのだろう

切なく笑ったその顔に
ああ、

どれだけ焦がれただろう

気がついてしまったんだ

見ないようにしてた

あなたの瞳に映るものを
あなたの視線の延長線上を

いとしくて

かなしくて

せつなくて

心臓のあたりがぎゅっとする

だけど嫌いになれないから

いつか
いつか

僕の中で思い出にできたら

宝物にできたら

その時は

あなたに笑っておめでとうと言おう

大輪の花束を届けよう

今度こそ

虹のように優しく唄って

故郷

お元気でしたか？

私は相変わらず

都会へいっても人は苦手なままのようです

ここから眺める風景

以前より少し変わったようにおもいます

なにもせずにあなたにもたれた毎日

ここまで走ってくる坂道

そして

私が旅立つ日

あなたに刻んだ印
痛かったでしょう

ごめんね

まるで昨日のことのように手が届きそうに
おもいだせるの

いつでもここから始まるように

迷っても戻れるように

今までここにいてくれて
本当にありがとう

変わらないでいてくれて

ずっと見ててくれて

感謝と嬉しさが溢れてしまう

旅先では成功ばかりじゃないけれど

あなたがいるからと
安心してます

どうかいつまでも
私を見ていて

ください

また次に来るときまで

お元気で

自然消滅音信不通

ねえ

あなたは私に待ってるからといったわね
ねえ

あなたは私を愛してるからと抱いたわね

なのにどうして

どうして

どこか遠くに行ってしまったの？

嘘を嘘とも知らぬ少女は

眩くたびに傷つけられて

泣けど叫べど癒されなくて

いつそこのわずかな雪と

溶けてしまえば楽なのに

愛してると言わずに

その心をしらしめて

たった一回で

どんな夜ものりきれるから

愛してると言わずに

その心を刻んで

すぐらずにはいられないの

無理だとどこかでわかっていても

今、その痛みは消えたけど
時折チクリと胸が締め付けられるの

そんな秘密の古傷も
記憶に思い出に沈み込んで

だけどそんなかなしい気持ちも
今日でさよなら
今日でさよなら

黄昏を仰いで
にっこり笑うよ

ああ、言えそうな気がする

ありがとう

卒業日記

さくらひらり舞い降り踊る
静かで優しい優しい春

今年はゆっくりやってきました

笑い合ったことも
ぶつかりあったことも

また励まし合い
認め合ったことも

すべて今とても昔のことに思えてきます

それを忘れないよう人は
記しておくのでしょう

書いてしまえば思い出になってしまつのに

わかっているのに

若草色の

あなたのくれた日記帳に

私は文字を書きました

なくしたくないのです

あなたを

私を

時間を

もうさよならなんです

季節の流れはそつと

私とあなたの思い出を運ぶ

ゆつくりと

それでも確かに

張り裂けそうだったこの思いは
痛みを和らげていきます

きもちいい春風に押され
私は一歩を踏み出します

あなたから一歩を
踏み出します

何光年よりも距離のある

重い

重い

だけど大切な一歩をふみだします

もうあなたとさよならしてから一年がやってきました

去年より少し早い春です

お元気ですか？

ほんとの気持ち

ごめんね

この瞬間に僕は本音を吐き出したかった
でもそれは

君を傷つける以外のなにものでもなくて

ホントはさ、

恥ずかしかったんだ

君と手だって繋ぎたかったし

ずっとずっと

見ていたかった

それは微かなスレ違い

されど確かなスレ違い

そっぴうー？ずつが
集まって

言葉にしなきゃ伝わらないなんて
単純なこと

そういう一言ずつが集まって

いつしか君が見えなくなってた

思いたくないけど

僕より君の回りには

死ぬほど悔しいけど

たくさんいい男がいる

嫉妬して

よそ見して

拒絶して

傷つけて

それでも

それでも君は

変わらずそこでむかえてくれて

やっと気づいた

甘えてた

ありがとな

ごめんな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4245p/>

追憶

2011年8月29日16時21分発行